



〔特集〕 青少年問題を考える

目をそらさないで「少年非行」

— その実態と傾向 —

補導・育成に動き出した

市青少年問題協議会

社会情勢や倫理観、価値観の変化によって、最近の青少年の非行や犯罪傾向が、多様化し凶悪化しています。

加えて、年齢的にも若年化している現状ですが、本市でも、近頃これら青少年の非行問題について何らかの対策を講ずべきではないかという声があがり、青少年問題協議会が中心となって、青少年の健全育成と補導に力を注いでいます。

去る六月二十五日に中央公民館で開かれた同協議会の総会では、会長の笠市長のほか、市議会、教育委員会、県事務所、菊池警察署、各小中高校、PTA、青年団、婦人会、区長会、民生委員会などの代表が集まり、協議会のあり方や事業のすすめ方、青少年育成や補導の具体策などについて、活発な意見が交換されました。

ここでは、この会議の中で提起された、いろいろの問題点や報告意見の概要を拾ってみました。

◎ 非行の主な原因

- (1) 家庭での放任、放任主義
- (2) 自分の生活に目標がない。
- ◎ こんな現象には要注意
- (1) 無断外泊
- (2) 派手な服装や極端な長髪

- (3) 夜あそびがふえる
- (4) 多額の小遣いと不相応な使途
- (5) 乱暴な言動や、自閉的傾向

こんな傾向に気づいたら、家庭と学校との緊密な連絡をとりながら、さっそく対応策を考えなければなりません。できればこのような事になる前に、不断の心くばりと注意が大切なことは言うまでもないことです。

(1)まず、家庭での教育やしつけが大切です。たとえ、共働きの家庭でも、子どもとは密度の濃い接触をかさねて、子どもの実態把握と理解に努めることが第一です。

小遣いの与え方や使い方の指導と確認、交友関係(時間、場所、相手)をよく知っておく、などもぜひ必要なことの一つでしょう。また、一般的に見て「小遣いの額が多すぎるのではないか」との反省も聞かれました。

一方、全体的に「目標が持てない」ために利他的になりやすく、非行に走る例が多い、これを防ぐために「ソフトボール大会」など何かに熱中させる工夫をして、目標や希望を与えるように努める。事実、ソフトボールによって、態度がみるみるよくなり、危険を脱した例もありました。

また、学校側の対応のし方として、家庭との連絡を充分にすることは勿論ですが、学校での生活指

導の充実、補導担当の先生だけでなく教師全体が非行化防止に注意を払うなどの点が強調されました。

社会教育関係者からは、大人や親たちに、子どもへの対応、教育に対する考え方への迷いが感じられる現状では、家庭教育学級の普及と充実が強く要望されました。

笠協議会長(市長)は挨拶の中で「戦後三十年をへた日本の現状は、その急速な成長度と共に精神の荒廃をもたらし、憂うべき世相となっている。我々も深く反省すべきである。行政の立ち遅れもあるので、今後は、青少年の健全育成を重点施策の一つとして考えていきたい。基本的には「親と子」を柱とした家族間の断絶が大きな問題となっているので、これからは行政、教育、家庭の連けいを考えながら、新しい親子関係、心の通い合う家族関係を作りあげる努力をしたい」と語り、委員の協力を求めました。

この協議会総会を契機に、次代をになう「青少年像」の確立めざして全機関あげての実動に入ることとなっています。

なお、この青少年問題協議会の構成メンバーは、前述の各界代表のほかに、市当局から助役、教育長、総務、市民の各部長、福祉課長、教委指導主事、一般市民から青少年健全育成推進員など、三十二名で組織されています。

青少年問題協議会 『補導部会』がスタート

組織的な実践活動を

昭和五十一年度の青少年問題協議会で決定された方針に沿って、まず、補導部会の設置準備会が八月三日、中央公民館で開かれ、事務局から提案された、組織と活動の実施計画を原案通り承認しました。これによって「青問協」の専門部会としての補導部会が、本格的に動き出すことになりました。

この日、集ったのは、菊池警察署少年係の係官を始め、隈府周辺の小学校長と補導部長、市立三中学校長と補導部長、高校長(三校)隈府小、菊池北、菊池南中の、PTA補導部委員、司法保護司、



新発足した「青問協」補導部会

隈府地区を中心とした地区民生委員など、およそ三十人で、新しく発足する「菊池市青少年問題協議会、補導部会」の組織と活動計画を検討しました。

特に各委員の間で論議が集中したのは、既にある「学校警察連絡協議会(学警連)」や、小中学校PTA補導部、高校補導部、市PTA連絡協議会との関連など、組織、運営上の問題でした。

そのほか、「BBS組織(B.B.S. Brother Sister)青年による非行少年強化指導運動」のない本市では、一般青年が、この部会に入って、非行に走りやすい中卒就職者の指導育成に当って欲しい(河崎委員)

「この運動は一人一人の善意だけに頼っているのはダメ、地域住民全部が関心を持って暖かく迎えることが必要」(田島委員)

「子どもよりもまず親を教育しなければならぬ現状を何とかしなければ。末端と横へのつながりを大切にして地域の盛りあがり」(坂本委員)などの意見が出されました。他市の取り組みなども参考例として紹介されましたが、結局、大筋で事務局原案どおりの

雑誌「家庭と防犯」より転写



個人よりもグループ化した少年非行が新しい傾向です。

家出人をさがす 相談所開設

菊池警察署

家出したまま行方わからない肉親を探しても、人知れず悩んでおられる方が多いと思われ、身元のわからない死亡者も県内には昭和二十六年から現在まで四二八体あり、無縁仏として葬られています。

警察では、こうした身元のわからない死体を一体でも身寄りの方を探したし遺体をひきとっていただくため、九月一日から三十日までの一ヶ月間、警察本部(県庁十二階)と各警察署に「家出人をさがす相談所」を設けて、全国各地で発見されて身元のわからない死亡者の顔写真などを用意して相談に応じることにしていますので、自殺すると言ひ残して家出した人

●病弱のまま家出した人

●家出後長い間たよりのない人

●その他、家出後死亡のおそれのない人

こんな人たちをお尋ねの方は、全国各地で発見された身元のわからない死体の写真や、衣類、所持品などの記録をもとに相談に応じますから、気軽に相談におこし下さい。

放任・抑制・盲愛は禁物!

ある少年たちの事件簿

「社会を明るくする運動」は、犯罪者の社会復帰をスムーズにし、また犯罪を防ぐために、全国的に実施される運動です。

私たちは、ひとりひとりがその気になって努めない限り、決して社会は明るくも正しくもならないと思います。

最近では、犯罪の低年化が特に

目立つようになりました。本号では、少年非行の予防についてその注意点をあげて見ることにしました。

◎家庭の不和は

子どもを非行に走らせる

(家出少年A君の場合)
両親はある事情で離婚、父親は夜勤が多く、ひるまは祖父母が家

を守っている。A君は学校から帰っても優しく接してくれる母親がいない。そのため父親に対する不信感が募り、ついには反抗するようになつて家出をしてしまった。少年時代にはやはり母親のいくしみがなくてはならない。

◎無断外泊は

非行への第一歩

(友人が原因のB君の場合)
B君は、年上の青年との交友関係が多い。兄貴分のCから誘われるまま、車を乗りまわし夜は車中で泊るようになった。学校には行

かなくなり、その後乗用車を無免許で運転中にパトカーに停止を命じられたが、そのまま逃げて事故を起した。

その後も無免許運転はおさまらず、友人の家を泊り歩いては偽名で車を借りたり、ついには車を盗んでまで乗り廻すといった非行を重ねた。

その間、家人や担任の教師の心配は察するにあまりある。さんざん探し廻った末、発見され、何とか更生を努力したが、本人は反省の色もないほど荒みきっていた。外泊ぐらゐと、甘くみた結果が大変なことになるとい一例だ。

◎青少年には、自己表現の

機会を与えよう

(自己表現を押し込まれたD君の場合)

D君は自己表現の少ないおとなしい少年だ。学校生活でも家庭生活でも、自分の存在を満足させることができなかった。いつでもどこでも押えられると変な方向に進んでしまう。

学校を出たD君は、長く伸ばした髪にパーマをかけ、赤く染めた。一風変わったかっこうだが、みんなが「カッコイイ」と言った。運動が巧いといわれては、スピード違反をくり返し、年下の少年を助手席に乗せては走り廻る。そのうち、シンナー遊びを覚え

て、陶酔感にひたるようになった。生来からある人間の表現欲を抑制され、歪んだ自己顕示に走った一青年の例である。

◎青少年には「勤儉思想」

を植えつけよう

「家にある貯金は百万円ぐらいい?」少年E君はよくこんな事を両親に聞いたという。

あいまいな両親の答えで、二十万円を持ち出してハイヤーで遊びまわり、友人の家で外泊し始めたのはこの頃からである。

二、三十万円ぐらゐ使っても多分、家計にはひびかないだろうといった単純な考えが、浪費、外泊といった方向に走らせた。子どもの中に、お金を大切にすること「勤儉思想」を養わないと、とんでもないことになる。

以上、例にあげた各家庭の肉親は、少年たちへの愛情という点では、それぞれ人並み以上の人々です。このことから「子どもは愛情だけでは正しく育たない」といえそうです。問題は子どもの志向を正しく見きわめることが大切です。幼い時の「しつけ」と共に、細かくその行動を観察して、正しい人間形成に努めることが何よりも肝要だと云えましょう。

雑誌「家庭と防犯」より転写



よき相談相手として理解してやるのが何より大切。

ふえたグループ非行や

家出・飲酒・不純異性交遊

菊池署の調査結果まとまる

菊池警察署と菊池地区防犯協会連合会は、このほど昭和49、50年の少年非行と、犯罪白書をまとめました。以下、その内容から非行少年と刑法犯少年の実態をご紹介します。

◎少年非行の特徴

(1)グループによる非行がふえた

窃盗、シンナー遊び、喫煙などの非行にわたって、単独での非行はほとんどなく、すべてグループを構成している。

(2)家出少年が非常にふえた

家出は急激にふえており、特に高校生男女が圧倒的に多い。

(第一表参照のこと)

(3)バイク、自動車盗みがふえた

自転車の鍵かけ運動が徹底したこと、自転車では飽きたりなくなったのが原因。

(4)高校生の夜遊び

不純異性交遊がふえた

高校生の体位の上に加えてテレビ、映画、出版物などの影響が、これに拍車をかけたと思われる。

(5)溜り場が移りつつある

これまでの非行は、一般的に菊池神社、温泉街、中央通などを溜り場としていたが、最近では、菊池駅、産交、バス

ついています。これら少年犯罪が一般の犯罪に占める割合は三十二パーセントで、およそ三人に一人の割合で「少年が罪を犯している」という結果が出ています。

◎刑法犯少年の概況

50年中に菊池署管内で補導(検挙)された刑法犯少年は、四十四人で、このうち犯罪少年として検罪されたのは三十五人です。これを罪種別に見てみますと、

窃盗 三十二人、恐喝 一人、脅迫 一人、その他 一人とな

◎不良行為少年の実情

不良行為少年として、昭和五十一年中に菊池署で補導した少年少女は、三三八名にのぼりました。

傾向としては、件数で「喫煙」が最も多く、ついで「夜あそび」。

また、四十九年に比べて著しくふえたものに、「家出」(二十一件増)、「飲酒」(九件増)、「不純異性交遊」(六件増)などがあげられます。

これを、年齢別行為別に分類すると第二表のようにになります。

第2表 年齢別・行為別補導状況

行為別	年齢別																		
	10歳未満	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	総数							
凶器携帯								1	2	1									4
乱暴										1									1
家出			2(1)			1	5(1)	6(5)	3(1)	3	3(1)	28(9)							
怠学							2	2	2	2		8							
不純異性交遊			1(1)			1(1)		2(2)	4(1)	1	3(1)	12(6)							
飲酒								6	9(2)	1	10	26(2)							
喫煙								3	25	58	36	17	134						
不良交友										2		2							
盛り場徘徊										3	2	3	8						
不健全娯楽										3		3							
夜遊び									1	6(3)	17	27	30(5)	15(2)	96(9)				
その他	3	1				1	3	1	2	7(1)	3								21(1)
総数	3	1		3(2)	1	6(1)	18(4)	65(7)	114(5)	79(5)	48(4)	338(28)							

◎急増する家出人

菊池署管内の家出人は、昭和五十一年中に急速にふえました。しかも、少年が非常に多くなり全体の四十九パーセントを占めています。

また、第三表でもお分りのように、その中でも高校生の家出が最も多く、少年の五十二パーセント、全体の二十五パーセントにのぼっています。

心身ともにいかに不安定な時期にあるかがうかがえます。原因は何かを調べてみますと、家庭環境によるものが第一位で、ついで、学業、仕事、病気の順になっています。家庭の不和、淋しさなどが、少年たちを家出に追いやる原因となっていることを、私たちは、しっかりと覚えておきましょう。

第1表 不良行為少年に対する補導状況

行為別	49年		50年		増減
	件	数	件	数	
凶器携帯			4		+4
乱暴			1		+1
家出	2	(1)	23	(9)	+21(+8)
怠学	15		8		-7
不純異性交遊	1		1		-1
飲酒	6	(2)	12	(6)	+6(+4)
喫煙	17		26	(2)	+9(+2)
不良交友	146	(1)	134		-12(-1)
盛り場徘徊	15		2		-13
不健全娯楽			8		+8
夜あそび	9		3		-6
金銭乱費	106	(22)	96	(10)	-10(-12)
その他	1	(1)			-1(-1)
合計	14		21	(1)	+7(+1)
計	382	(27)	228	(28)	+6(+1)

()内は女子数を表す。
+、-は前年度比較

第3表 家出人捜索願出の学職別状況

学職別	学職別										合計
	未就学者	小学生	中学生	高校生	大学生	その他の各種学校	勤め人	労働者	従業者	その他	
菊池	男	1	1	9		2	2	6	1	10	32
池	女			1	8	1	2	6	4	13	35
計		1	2	17	1	2	4	12	5	23	67
熊本	男	1	18	68	131	7	10	62	89	52	628
女	1	5	79	131	9	14	56	30	139	362	826
計	2	23	147	262	16	24	118	119	191	552	1,454